

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付しています。所定事項の記入および記載内容をご確認のうえ、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。但し、消耗品・ソフトウェアは除きます。

■調子が悪い時は

この「取扱説明書」をもう一度よくお読みいただき、お調べください。意外な操作ミスが故障とされている場合もあります。本機以外の原因も考えられます。他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでも異常がある場合は、修理を依頼してください。また、修理を依頼される時は、下記の必要事項を修理窓口までお知らせください。

① お名前 ② お電話番号 ③ ご住所 ④ 製品名 ⑤ 詳しい状況

■保証期間中の修理は

万一故障や異常が生じた場合は修理窓口へご連絡のうえ、製品と保証書をご郵送ください。

■保証期間経過後の修理は

修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、修理窓口にご相談ください。

修理窓口 TEL (0827)22-2525 **ワイズエポック** (リビエールへいあん内)

ホームページ <http://ys-epoch.com>

主な仕様

型式:2チャンネルステレオ用特殊センタースピーカー(密閉型)

定格インピーダンス:8Ω(minimum7Ω)

最大入力:30W

使用スピーカー:2cmチタドームスピーカー

外形寸法:300(W)×150(H)×200(D)mm

質量:1.3kg

材質:木製

付属品:取扱説明書・保証書

※仕様・外観は性能向上のため予告なく変更する事があります。

ご購入された時にご記入ください。
修理を依頼する時に、お役に立ちます。

ご購入年月日: 年 月 日

製造番号(SERIAL):

メモ

TRINI★STAR® mini

SE

世界初^{※1} ステレオ用センタースピーカーシステム
トリニスターミニSE(スーパーエディション)

取扱説明書

※2009年11月現在



このたびは「TRINI★STAR mini SE」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。

お読みになった後は、保証書とともに大切に保管ください。



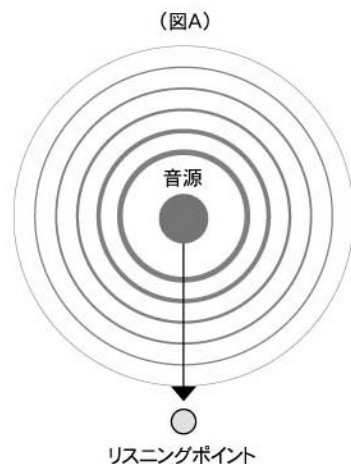
アクセサリ一級賞
2011を受賞

スピーカーの再現性

初期のスピーカーはモノラル(1本)でした(図A)。目の前にドンと存在感があったのです。それが左右に2本、つまりステレオになったのですが、その時の驚きと喜びは凄まじいものでした。しかし代わりに失ったものは、目の前から聴こえる実在感。1本から2本への進化は、真ん中で聴こえるもののみならず、聴こえる全ての音源を必ず左右のスピーカーで合成しなければ成り立たない状況を作り上げてしまったのです。従ってすべての再生音は部屋の影響を大きく受けることとなりました。

また、このことはもう1つ大きな欠陥を抱えていました。同心円で拡がる音波は左右の真ん中で聴くリスナーに最悪の再現性をもたらしたのです。

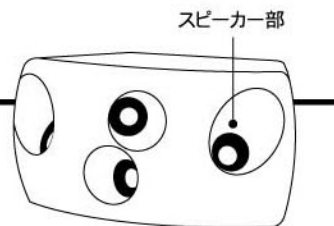
■モノラル(スピーカー1本)の音の再現性



(図B)に示すように、2本のスピーカーをどのように配置したとしても、リスニングポジションは両スピーカーから届く音波の谷間となります。しかも最も谷が深い部分であり、左右にわずかでも頭を振ると真ん中の音源は少しではあっても、定位が不安定になります。さらに、同心円の線がアタック音(音波)の到達を示すとしたら、リスニングポジションは最もアタック音の到達が遅い。(図A)のように全ての生音源はリスナーがどこにいても正しくアタック音が最初に届くの比べ、左右2本のステレオではアタック音の到達が極めて遅いため、再現された再生音は、アタック感の弱い、生気を失いがちなものになってしまうのです。

本機の特徴

このシステムの基本は、同じスピーカーを3本使うことですが、時を重ね完成度をあげた現行ステレオスピーカーシステムはそれを拒みます。様々な研究を繰り返し、無駄なもの省いて必要なものに特化したのがこの「TRINI★STAR mini SE」システム。世界初のステレオ用センタースピーカーシステムです。



ボディカラーは全5色
(ホワイト・ブラック・レッド・グリーン・イエロー)

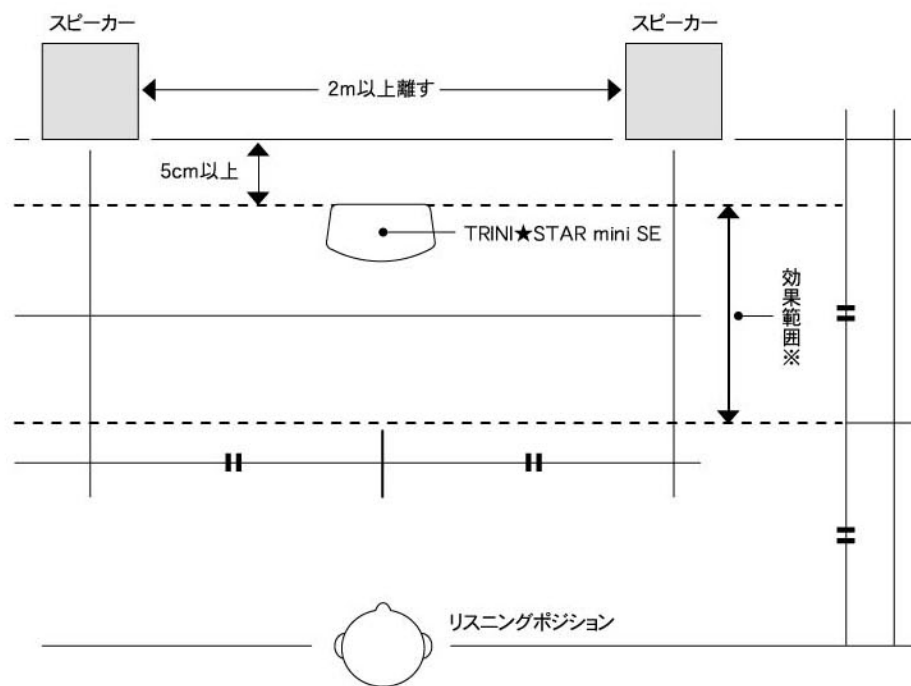
正しいセッティング方法[1]

■お手持ちのステレオスピーカーのセッティング

本機が正しい効果を発揮するために、お手持ちのステレオスピーカーは、左右2m以上離してご使用されることをお勧めします。理想的にはリスニングポジションを頂点とし、残る正三角形の2点にステレオスピーカーを配置していただくことです(図C)。

また、ステレオスピーカーをセッティングする高さは、リスニングポジションにおいて耳の高さとステレオスピーカーの高音用ユニットが同じ高さになるよう工夫するか、上方や下方に向けて耳にダイレクトに届くよう焦点を合わせると好結果になることが多いと思われます。

(図C)



※効果範囲:この範囲内に本機を正しくセッティングすれば効果を発揮します。

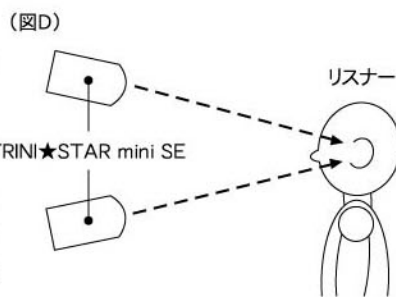
この状態で耳に届く高域が強ければ、耳にダイレクトに届くよう合わせたステレオスピーカーのセッティングを外側や場合によっては内側に振って拡がりを出すとういでしょう。

なお、スピーカーのセッティングで最も大切なことは、出来るだけ左右のセッティング条件をそろえたうえで、スピーカーキャビネットの天板を指でゆすった時に起こりやすい、特に前後のゆれを止めることです。この努力は必ず付帯音を減らし、芯のあるしっかりした音の再現につながります。

正しいセッティング方法[2] (トリニスターミニSEのセッティング)

■センターセッティング

お手持ちのステレオスピーカーシステムの左右真ん中に本機をセッティングしてください。左右の真ん中が絶対条件になります。



■高さのセッティング

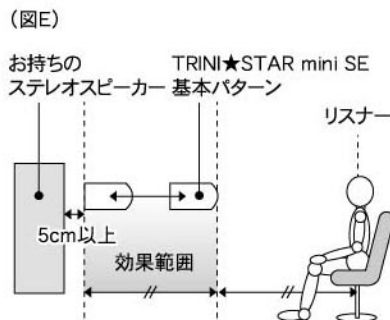
低い位置にセッティングする場合は、本機のボディをやや上に向けてください。高い位置にセッティングする場合は、本機のボディをやや下に向けてください。どの高さにセッティングする場合も、耳に焦点を合わせるのが基本となります(図D)。

■前後のセッティング

お手持ちのステレオスピーカーより、5cm以上リスナー寄りに前に出した位置から、ステレオスピーカーとリスニングポジションの半分の位置まで前にせり出し、リスナーに近づいたところまでの間の適切な場所にセッティングするのが基本パターンです(図E)。

まずは、メインスピーカーより50cmほど前に出したところから、お試しください。但し、この場合も左右の真ん中にセッティングすることが絶対条件となります。これでしっかりと、本機の性能が発揮できる環境が整いました。

心ゆくまであなたのお好きな音楽をお楽しみください。



接続方法

■スピーカーを接続する前に (電源を切って作業をしてください)

1. スピーカーケーブルの外周絶縁体ははずす



2. 芯線をよじる

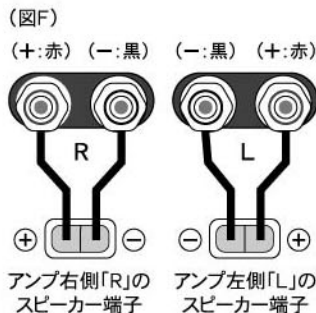


このスピーカーシステム「TRINI★STAR mini SE」は、世界初の製品で他に例がありません。接続は、お手持ちのアンプの裏にある左右のスピーカー端子に接続するだけです。別のアンプ等をご用意する必要はありません。左右のステレオスピーカーシステムと本機が鳴るように接続をしてください。

スピーカーのプラスとアンプのプラス、スピーカーのマイナスとアンプのマイナスを正しく接続してください(図F)。

※スピーカーケーブルの芯線のプラスとマイナス、L(左)とR(右)を絶対に接触させないでください。また、間違っていると音が不自然になったり、故障の原因となります。

※お手持ちのアンプにスピーカー端子が1セットしかない場合は、そのスピーカー端子へ一緒におつなぎください。



レベル設定

■メインスピーカー出力音圧レベル

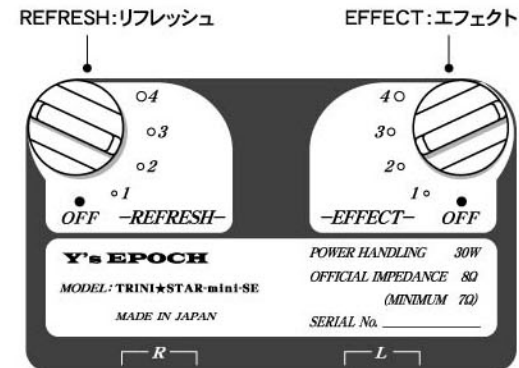
82dB~96dBに対応しています。

■REFRESH:リフレッシュ

音楽が持つ鮮度と、あなたのお部屋固有の音響的な癖をリフレッシュするのが大きな目的のつまみです。

■EFFECT:エフェクト

本機本来の効果を左右する大切なつまみです。



※OFFは無接続状態です。

レベル調整

お手持ちのステレオスピーカーシステムの出力音圧レベルに合わせてレベルを調整します。

以下のレベルを基準に調整してください。

レベル4 96dB~90dB	レベル3 92dB~87dB	レベル2 90dB~84dB	レベル1 88dB~82dB	OFF 無接続状態
-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	--------------

2つの“つまみ”は同じ値が基準です。2つ以上差がないようにされた方が初期の効果を得やすいでしょう。

※上記レベルはあくまでも基準値です。本機を設置する位置やお部屋の条件により、耳に届く音圧も異なります。

適正な効果について

リアパネルにあるレベルセッティングの“つまみ”には、OFFのポジションを設けています。試聴して最適と思われるポジションとOFFとを比較し、次のことをお確かめください。

- ①写真でいえば逆光で撮った人の顔のように、やや顔が薄暗く影のように写っているものに、フラッシュを使い、顔にも十分光を当てたような効果が出ていれば、基本的に適正レベルと言えます。
- ②次に、あなたが最適と思われるポジションとOFFを各楽器の定位する位置を比較しながら聴き比べてみてください。右にある楽器は右に、左にある楽器は左に、より前後の立体感や臨場感、実在感をもって再現できるよう、本機を左右に少しずつ回転させ、ベストなポジションをお探してください。
- ③ベストリスニングポジションで最適な再生ができるようにセットされたシステムです。よって、左右のスピーカーの真ん中の延長線上に正しくお座りください。最適なポジションはその位置のみとなります。
- ④本機は82dB~96dB以下の出力音圧レベルの家庭用ステレオスピーカーと組み合わせてお使いいただくよう設計をしています。ホール等における大音量での使用を前提としておりません。家庭内でお楽しみください。

取り扱いについて

■旧型カラーテレビやパソコンとの近接使用について

旧型のカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。

テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合は本機をテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

テレビなどの近くに置く場合は、テレビから出ている電磁波の影響でオーディオ機器の電源を切ってもスピーカーから雑音が発生することがあります。この雑音が気になる場合は、テレビからさらに本機を離してご使用ください。

■取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故が生じる場合がありますのでご注意ください。

① ピンコードなど接続端子の抜き差し時のショック音

② アンプが発振している時

③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音

④ 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音

⑤ マイク使用時のハウリング

⑥ テープレコーダーなど早送りした時の音

⑦ ラジオが正しく受信していない時のノイズ

メンテナンスについて

本機の4つのユニット(スピーカー部)は手で触れたり物が当たったりするとへこんだり破損したりしますので十分ご注意ください。なお、多少のへこみは再生する音にはそれほど大きな影響はございません。

へこみをなおす方法としてセロテープなど接着力の弱いテープを軽く貼り付けて、慎重に引っ張れば元に戻りますが、個人の責任において行ってください。

また、破損した場合は有償にて修理をいたしますので当社までご連絡ください。

製品の表面は、時々柔らかい布でからぶきしてください。指紋等は長い期間放置すると、拭いても取れにくくなりますのでご注意ください。汚れがひどい時は、中性洗剤をうすめた液に柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取った後、乾いた布で仕上げをしてください。

固い布やシンナー、アルコールなどの揮発性のものはご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いの場合は、注意書きなどをお読みください。スピーカー部分に埃がついた時は、レンズ用エアブラシをかけると、埃を取ることができます。

オーディオ機器の正しい使い方

■安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

警告 表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

警告

■故障したまま使用しない



煙が出ている、変なおいや音がするなど異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、修理窓口、または販売店にご連絡ください。



■改造しない



本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■水のかかるところに置かない



風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。本機は屋内専用で設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。



■水の入った容器を置かない



本機の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品など水の入った容器を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■中に物を入れない



本機の内部に金属物や燃えやすい物を差し込んだり落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。

■中に水や異物が入ったら



すぐにアンプの電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、修理窓口、または販売店にご連絡ください。



注意

■設置上の注意



ぐらつく台の上や傾いた所、厚手のじゅうたんのするなど、不安定な場所に置かないでください。移動させる場合は、アンプの電源スイッチを切り、スピーカーケーブルをはずしてから行ってください。また、スピーカー部には手をかけないでください。落下による故障、けがの原因となることがあります。

■スピーカーケーブルは安全な場所へ



配線された場所によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを利用した場合や高い所に置いた場合、また壁に掛けた場合などは、特にご注意ください。

■次のような場所に置かない



調理台や加湿器のそばなど、油煙や湿気が当たる場所や、埃の多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となります。

■接続について



本機を他のオーディオ機器やテレビなどに接続する場合は、それぞれの取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。

■使用上の注意



電源を入れる前にアンプの音量は最小にしてください。過大入力でスピーカーが破損したり、聴力傷害などの原因となることがあります。長時間、音がひずんだ状態で使わないでください。スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。音量は上げすぎないでください。大音量で長時間聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。本機に乗ったり、ぶらさがったりしないでください。倒れたり、破損したりして、けがの原因となることがあります。キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で本機が使えなくなったり、データが消失することがあります。